
一人ぼっち

空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一人ぼっち

【Nコード】

N4835B

【作者名】

空

【あらすじ】

彼との情事。それが終わると…『ねえ？コツチを向いて…』女なら誰でも感じた事あるのでは？

——ねえ？どうしていつもソッチを向くの？……

彼は私に背を向けて、煙草をふかしている。
彼の視線はテレビの画面。

セックスの後は、いつもそう。
ベットから降り、ジュウタンの上であぐらをかく。
そして一服。

つんつん。

布団から足を延ばし、足先で彼の背をつつく。

何も反応しない。

『ねえねえ』

声を掛ける。それでも彼は何も言わない。

（スルだけが目的？）

考えちゃいけないのは解っている。解っているけど……時々、私は虚しくなる……。

（ねえ？コッチを向いて…。一緒に居るのに、一人にしないでよ）
ねえってば。

無言のテレパシー。彼に届くように背中をジッと見つめる。

（コッチを向いて）

だけど…どんなに頑張っても、やっぱり彼は振り向かない。

（本当は私のコト好きじゃないんだ。カラダだけが目的なんだ…）

疑い出すと止まらなくて、いろんな事を考えてしまふ。急に心臓が
キリキリと痛み出す。唇に力を込める。

我慢していても、目頭がどんどん熱くなっていく。

（きつとホンモノの彼女は他にいるんだ。私は遊びなんだ）

目いっぱい溢れたものは、頬を伝って流れている。さらに唇を強
くつむる。声を出さないように…。

『ひっ…く』

我慢しているのに、声が漏れてしまふ。私の泣き声。

驚き振り向く彼。ダラダラ涙を流す私を見て、目をまあるくする。

『なあんだおまえ！何泣いてんの！』

彼は大笑い。

『へんな顔して泣くなよ』

手を延ばし、私を抱き締めた。

『どうした？』

彼の笑顔が嬉しくて。私は泣き笑いをした。そして、頭を優しく撫でられる。

私はアナタの彼女？

勝手な私の妄想。不安になると出てくる妄想。

そんな妄想も、彼に抱っこされると吹き飛んでしまう。

抱き締められ、抱き締め返し、彼の肌の匂いを吸い込む。大好きなこの匂いを…。

大丈夫。私は彼に愛されている。

こんな単純なコトで元気になれる。

だから、もう一人ぼっちじゃない。

今夜も、彼の腕の中で幸せに眠る……。

FIN

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4835b/>

一人ぼっち

2011年10月3日19時26分発行